



D I G実施の手引き

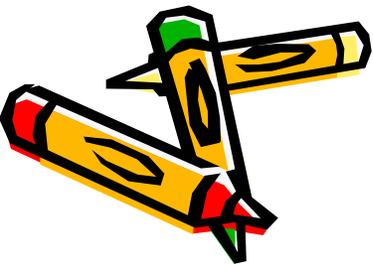
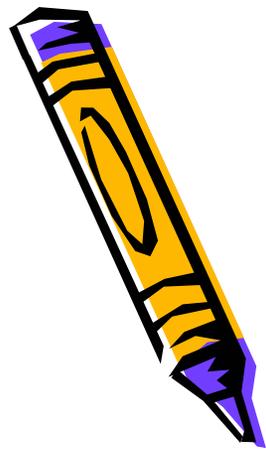
子供対象編

長野市消防局

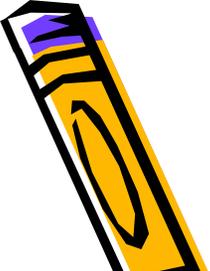
DIGとは？

- **DIG**(ディグ)とは、
災害(**Disaster**)のD
想像力(**Imagination**)のI
ゲーム(**Game**)のG

の頭文字を取って名づけられた、誰でも行うことができる気軽に簡単にできる災害図上訓練の名前です。



DIGの特徴



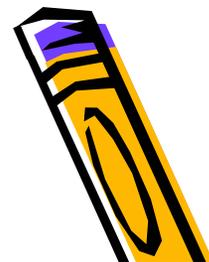
1 災害を知る

「どこで、どれくらいの規模で、どのような災害の発生が予想されるか」

地図に書込みをすることで、具体的に自分の暮らす地域で起こりえる災害をイメージできます。



DIGの特徴



2 まちを知る

「まちの構造はどうなっているのか」

「災害時に安全な場所、危険な場所はどこにあるのか」

「何かあった場合にお世話になる場所や施設はどこにあるのか」

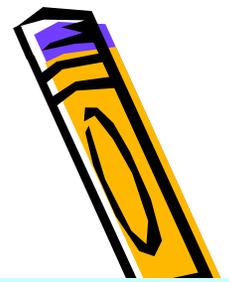
地図に具体的な要素を加えていくことで、自分達の地域の特徴を確認することができます。

3 ひとを知る

「いざという時に頼りになる人はどこにいるのか」

「近所に手助けが必要な人はいないか」

人の情報は、地域または子供達にとって非常に重要な情報になります。さらに、参加者全員で防災について話合うこと自体も、地域の防災ネットワークの基盤強化につながります。



何をするのか？

学区内が入った地図を広げ、みんなが**危ない！！**と思った場所を話し合い、地図に書込み、知識を共有していきます。

学校に行く時や帰るとき

何に注意すればよいのか

普段の生活の中で

どのような準備をしておけばよいのか



例えば・・・

「災害があった時に危険な場所や、注意しなければならない場所はどこにあるのか？」



塀の倒壊、自動販売機の転倒など・・・

DIGの流れ

事前準備

グループ分け・
役割の決定



時間配分・
記入項目の決定



地図・小道具類
の準備

DIG当日

実施方法の
説明 10分



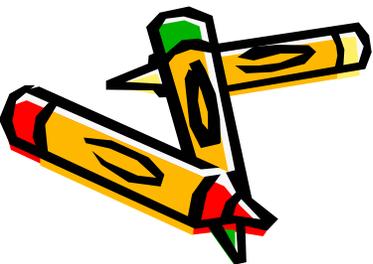
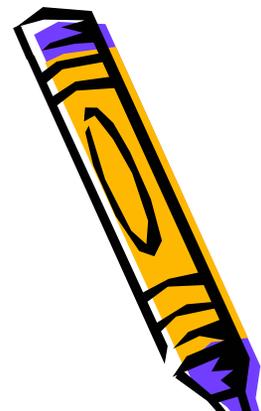
地図作成
シート1 15分
シート2 15分



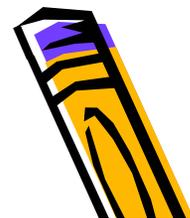
課題検討
10分



成果発表
10分から15分



子供を対象としたDIG実施方法



事前準備

1 実施対象の決定

- 小学校中高学年
- 1クラス分の人数（30～40名程度）がよい。

2 対象人数

- 1グループ4から6人に班分け。
- 全体の進行役、各グループのリーダーと書記を決定

3 時間配分・記入項目の決定

- 長い時間をかけずに60分程度を目安にする。
- 記入項目は、通学路周辺で関係ある施設、場所を中心にした方が、子供は身近に感じやすい。

事前準備

4 地図・小道具類の準備

【地図】 住宅地図や都市計画図などの拡大コピーを利用

【透明シート2枚】 地図の上に敷き、書込みを行うもの

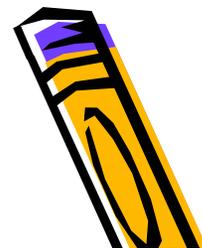
【油性ペン】 地図に書込みをするためのもの

【付箋(ふせん)】 意見を書き出すときに使用

【模造紙】 意見を整理し、グループ発表の時に使用

- 上記の準備品は各グループごとに用意。
- 1枚の地図につき透明シートは2枚用意し、セロテープ等を使用して事前に貼り合わせておく。

DIG当日



1 会場設営

- グループごとに準備品（必要であればテーブル）を用意
- 30～40名程度が収容できる教室が望ましい。

2 事前説明

- 訓練前に、災害が発生したときの被害のイメージをもってもらおう。

- ・ 災害時の写真等で、ビジュアルによる説明を付け加える。
- ・ 記入項目の施設、場所は、なぜ安全か？危険か？を説明
- ・ 「危険な場所」の対象は防災面であることを認識してもらおう。

事前説明の災害写真例



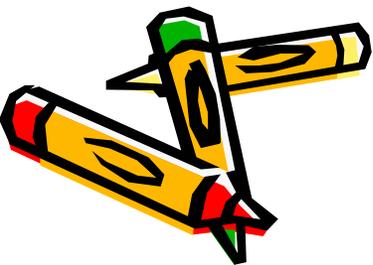
地震時の塀の倒壊



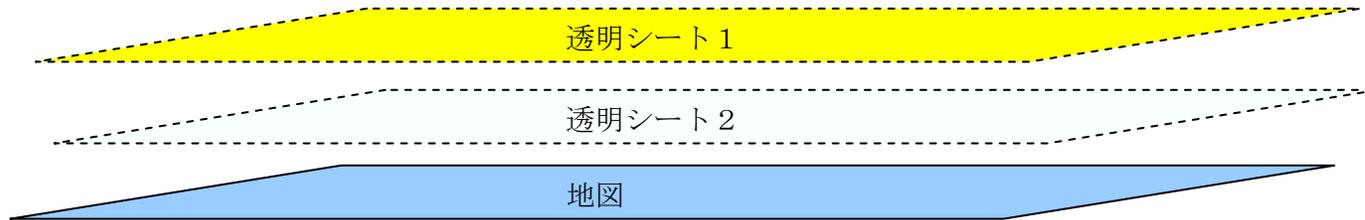
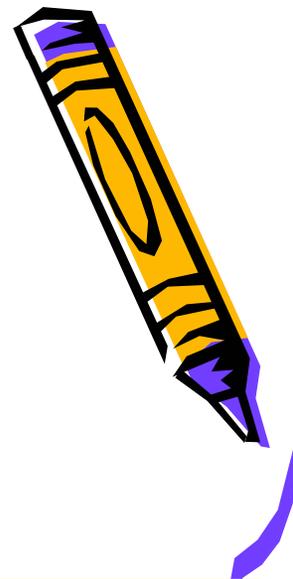
道路の寸断



河川の増水



地図の作成



シート1に記入

- 学校と自宅に色を塗り、通学路に線を引く。
- 通学路周囲の防災上の安全な場所を記入。

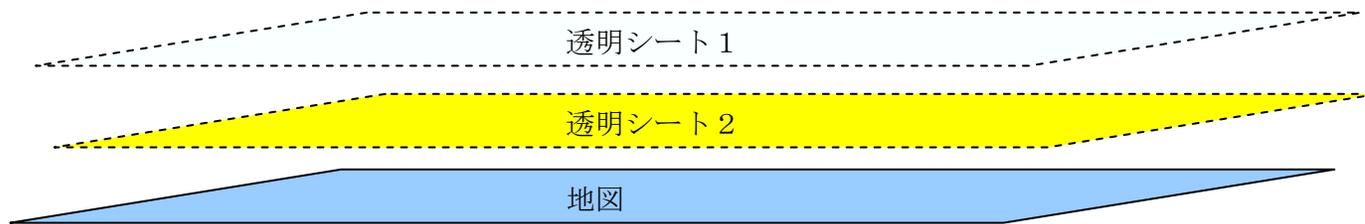
どのくらいの数があり、どの位置にあるかを確認してもらうことがポイント。



まちの構造・避難場所の確認

種別	色・線種		種別	色・線種	
自宅・学校		黄線で囲む	河川・池等		青太線
通学路		紫太線	鉄道		黒太線
公園や学校等の避難所になる施設・場所		緑太線で囲む	主要道路		茶太線
市役所等の公共施設	市役所	黒字で名称			

地図の作成



シート2に記入

- 通学路周囲の防災上の危険な場所を記入。（シート1はめくる。）
- 危険な箇所は赤一色にした方がシート1の色と区別しやすい。



地域防災を考える上でマイナス（危険）な施設・場所等の確認

種別	色・線種		種別	色・線種	
河川の氾濫危険箇所		赤で網掛け	危険物の貯蔵庫		赤字
土砂災害の恐れがある場所		赤で網掛け	災害時使用できない道路・橋		赤で網掛け
ブロック塀が多い狭い通路		赤線	子供や先生の観点から危険だと思う箇所		赤字

課題検討

- 地図にシート1、シート2を重ね合わせる。
- 以下のポイントを参考にして、付箋に記入していく。

検討する上でのポイント

- ① 通学路の途中で危険が予想される場所はどこか。
- ② 通学路以外で危険が予想される場所はどこか。
- ③ 危険な場所で地震に遭遇してしまった場合、どうやって避難すればよいか。

成果発表

- 1グループ3、4分程度の発表
- 発表後、基本的な事項をアドバイスする。

発表項目

- ① 予想される被害や危ない場所
- ② 予想される安全な場所
- ③ 気をつけなければいけないこと 等



D I Gを実施する上での留意点

- 気軽にゲーム感覚でやってもらうことが目的なので、意見や発表内容の評価はしない。
- 意見があまり出ない場合は、ある程度のアドバイスをして、意見を出しやすくする。
- 記入する項目、課題を検討する項目は、自由に決めてよいが、必要最小限にする。

地図の作成例

浸水または線路の倒壊により使用できなくなる危険。

河川の氾濫危険

危

市役所

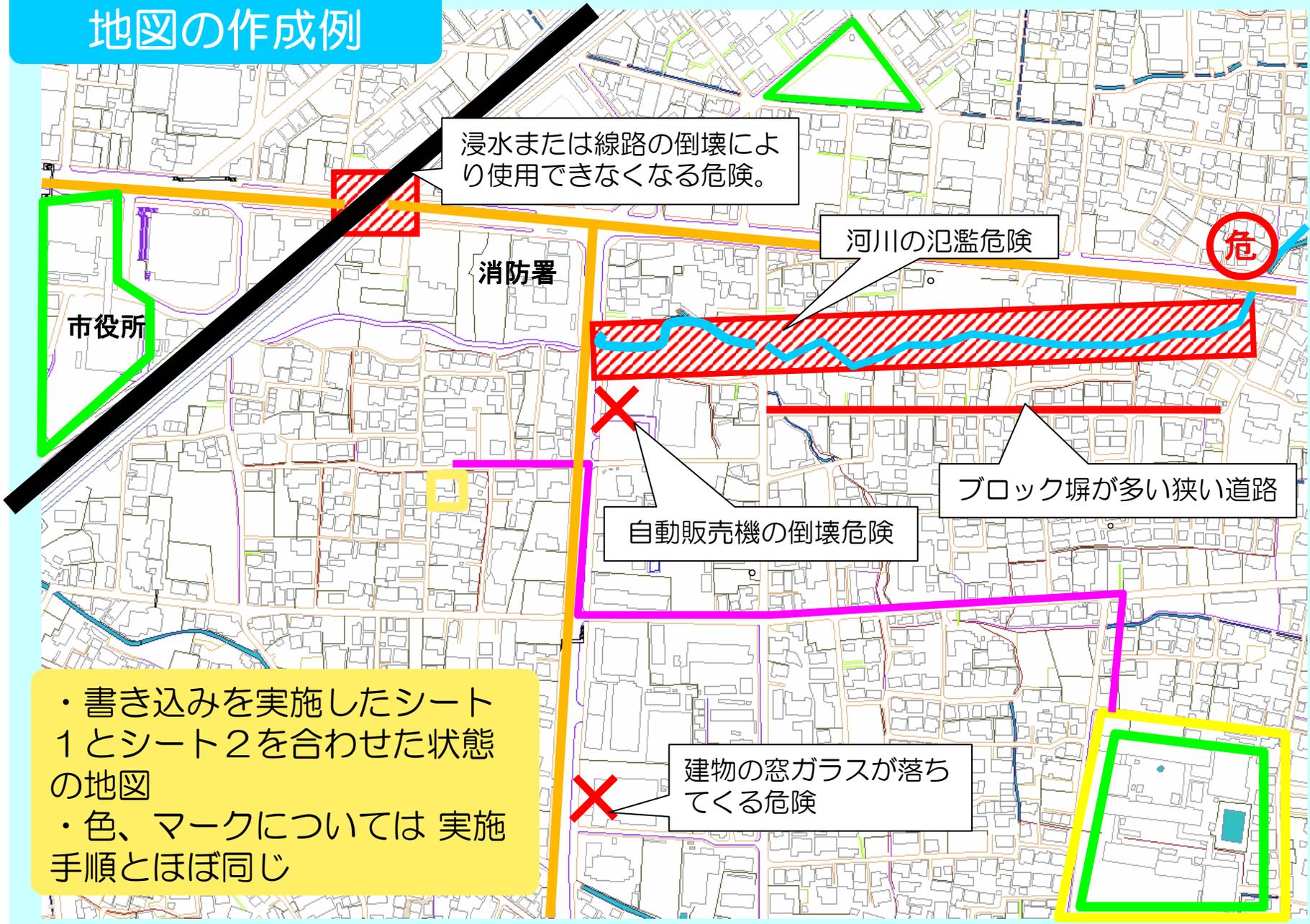
消防署

ブロック塀が多い狭い道路

自動販売機の倒壊危険

建物の窓ガラスが落ちてくる危険

- ・書き込みを実施したシート1とシート2を合わせた状態の地図
- ・色、マークについては実施手順とほぼ同じ



地図の完成



書き込みを実施したシート1とシート2を合わせた状態の地図
色、マークについては実施手順とほぼ同じ